

## 科研費 基盤研究 (B) 「世界文学における混成的表現形式の研究—移民文学を中心に」

(平成 20-22 年度)

研究代表者：土屋勝彦 (名古屋市立大学人間文化研究科教授)

研究分担者：田中敬子 (名古屋市立大学人間文化研究科教授)

沼野充義 (東京大学人文社会系研究科教授)

西 成彦 (立命館大学先端総合学術研究科教授)

管 啓次郎 (明治大学理工学部教授)

谷口幸代 (名古屋市立大学人間文化研究科准教授)

山本明代 (名古屋市立大学人間文化研究科准教授)

### 研究目的：

世界文学の現況を考えると、その一翼を担っているのがポストコロニアリズムの文学や移民文学ないし亡命文学であり、それを体現するエキリチュールとしてクレオール的な混成文化的表現様式を認めることができる。これはグローバル化とローカル化の両極を揺れ動く現代において、複数文化の衝突と融合の帰結として生まれてきた 20 世紀以降の文学的潮流と呼応している。本研究は、そうした混成と融合によって独自の文学様式を生み出してきた各国の移民文学や亡命文学を中心として、その融合的ないしは相互反響する表現形式の特質とその現代的意義を解明しようとするものである。すなわち、混成的なエキリチュールの特質の考察、そうした表現形式を生み出した時代背景と文化社会的意味の解明、その将来的方向と現代文学における可能性の究明、「移民文学」の新たな意義と定義付けの試行、ポストコロニアルな文学現象に関する文学理論の再構築という 5 つの課題の解明である。

### 研究計画：

平成 20 年度

まず資料として一次文献の収集と整理を精力的に行う。すでに重要な文献については収集しているが、さらに英語圏、ドイツ語圏、フランス語圏、ロシア語圏の図書館や資料館に出向き、最新の研究文献を渉猟し、さらに当該国での作家たちと研究者たちにも面談する。文献と面談による一次資料を整理するなかで、個別作家作品の分析と解釈を行っていく。土屋はウィーンとベルリンの移民作家たちに面談し、疎外と同化の狭間で揺れ動く複数文化のアイデンティティ形成のあり方を調査する。沼野はロシアの亡命作家たちと面談し、言語的孤立の中で再構成される文化衝突の行方を探求する。田中は、アメリカ合衆国の移民作家たちに面談し、その作品に表れる融合的エキリチュール形成のあり方を問い直す。西、管、谷口、山本もそれぞれ国内外の諸研究会に参加し、当該テーマについて資料調査を行い作品分析・解釈を進める。12 月にメンバー全員が集合し 2 日間の共同シンポジウムを開催するが、今回は当該分野の若手研究者やポストドクターの発表を中心とする。フランス語圏、ロシア・東欧語圏、英語圏、ドイツ語圏の融合的エキリチュールをめぐって集中的に報告と討論を行う。これは、関東、関西、中部圏の大学院生および若手研究者たちの共同研究ネットワークの形成も企図する。報告と討論は CD-ROM にまとめる予定である。

またさらに可能ならば、2 月にドイツ語圏の移民文学をテーマとして、ドイツ語圏越境作家たちと移民文学を専門とするドイツ人研究者たちを招待し、国際シンポジウムを開催したい。

土屋勝彦